





第八回今西祭都井岬扇山山頂にて

かとは一日 やる。そ ででででである。 ででである。 ででである。

< C

九州学問の旅

第八回今西等報告

支部四 网体配含事業決定

支部定期総会報告

五月の週史

モンプラン登山

的羅山

御所始がらたち位田

(を用り)及って、 在別力 (成一

年次晚餐会病 (二)

四〇周年記念誌原稿藝里

お知らせ

後

編司先

・ 4 1 はな。登山道やた本のよで ・ 4 2 自然の姿に接し、御夫妻も大御 ・ 5 をして、姿然足もとより飛びたつっ な難難にもびってりてあったし、二匹の な難難にもびってりてあったし、二匹の な難難にもびってりてあったし、二匹の がかられた高崎山をあどに、田ノ神経 に出会い、すで、 仍茶達 定朝仁高 断までに 寿寺別院へ、途中間違ってくる下の車とれた高崎山をあとば、田ヶ浦経由高られた高崎山をあとば、田ヶ浦経由高いたりであったし、二匹の蛇にはもびっくりであったし、二匹の蛇にはない髪山道や犬本の上で歓迎しててはない髪山道や犬本の上で歓迎して 大好 ならいの 与西先生との関わりなど なる。梅木支部長エコ町自然動物園に集合、別版駅で受付をすませた参加 と動権加

リーで大分港に収支津子先妻を九四

机跡をたどる

声問の施 ナンサル

てある。

師也

日、先生の

神次男である平翁日川、郎、

か温

神観 類が との 研

ラサルの生態を追っ た高崎山や宮崎県 を大な功績を残さし

114 1/2 to orto

研办先

する人達を迎えて盛大に行われた。

明光でも 110

显で作原八幡宮の大楠を見て高崎山一六十三大分港に両さんとともに出迎える。 → 下大妻を九時に分着のダイヤモシトマーデ夫妻を九時に分着のダイヤモシトマーニー

(1)山頂

のに感嘆しきりであった。 近分にて山頂青 途中植物

耳をかたむけ、満足して高崎山思いに観察をし、係員の説明に 価値ある講演にしていきた 自然観察、 見つめることができる。高崎山 題しての講演。エサを与えない 姿が良く理解できた講演であり、 サルを愛し、観察を続けている を単なる観光地に終わらせずに ルの生態を通して、 会のルールの説明、 などスライドを見ながらサル に毎日仕事としてサルに接し、 い。」と締めくくった。さすが ソを交えて紹介などあり、その による 同その後寄せ場のサルを思い 野生ザルの出産シーン 学術研究の場として 近の高崎山事情」と 校時代の 人間社会を そして「サ 松井猛さん エピソ 社

をあとにする。 さて、 次は会場を 「豊の国健

拶があり、次に次男の宇治日出事務局長より歓迎及び開会の挨地にもってきた張本人である西 司会の加藤より今後の日程の説 明、そして今回この会を九州 今西先生を偲んで一分間の黙祷 康ランド」(春日 するお礼のご挨拶があり、そし 二郎さんより今日の今西祭に対 一六時より懇談会、 ピソードなどを交えてのお話 日本山岳会の支部活動 加の方々の今西先生の思 指名により各地よ 町)へ移して、 まず冒頭に 0

> という間の一時間半であった。 九 サウナでさっぱり汗を流し、 写真を撮り、 なった。ほとんどの方がそれぞ 康ランド」自慢の温泉に入浴、 熱心にそれを聴くという、あ れの思いで話をされ、 時より大広間で懇親会となる 懇談会の後参加者全員で記念 その後「豊の国健 皆んなも



(懇談会を終えて

賛歌 一時。とっておきは「坊ケツル酔うほどに歌も飛び出す楽しい 懇親の風景となる。飲むほどに、 0 自慢の料理をいただきつつ、酒 支部長より今西祭のこれまでの 所で旧交をあたためるいつもの ご挨拶をいただき乾杯となる。 経過やその意義について冒 杯を交わしつつそれぞれの場 れて着いた岐阜支部の高木 の作者である松本、 頭の

> ざる部分について して、これを囲み今西流の万歳 のちに最後に中央に三角点を模 富山支部のしめくくりの挨拶の あったが、来年の開催 れる。あっという間の二時間で 邦初公開ではなかったかと思わ それぞれ坊ケツル賛歌の知られ 本御両人がリクエストに応えて で懇親会のお開きとなった。 歌ったのは本 地である。

tr ランド」を出発し大分駅まで一 を配って、二時四五分発予定の 五分間歩いて、駅で朝食の弁当 のもいたが、午前一時「豊の国 飲み足らずに二次会で頑張るも での四時間、仮眠をするものや 「ドリー (二一時) さて、宮崎行きの夜行列車ま ムにちりん」へ乗り込

発車。全員「ドリームにちり こと。やっとのことで四時前に 現場検証が生じて動けないとの 列車が約一時間も発車しない。 ん」車内で仮眠となる。 車に飛び込む事故が発生のため 車掌の説明だと高城駅付近で列 ところがここでハブニング、

ガイドの説明を受けながらバス 貸し切りバスに乗り込 の雨のなか、すぐに宮崎交通 るも、宮崎は生憎のどしや降り 下全員での歓迎の出迎えを受け れて到着。宮崎支部長大谷氏以 翌朝宮崎駅に定刻より少し遅 南国特有の梅雨の雨が降る中

> りながら南下していく。 のやりとりでガイドもたじたじ 釈を入れる福岡支部長松本氏と 屈しのぎにバスの中は盛り上 おもしろい車内風景となり、退 説明にその都度立ち上がって注 ばかりが見えるだけ。ガイド ガスのため視界が悪く、ただ波 てくる。日南海岸の海の景色も 行は別のマイクロバスでつい 段と激しくなる。 宮崎支部 75 0

れる。十一時過ぎに都井岬「清眠っている姿もちらほらとみら と急ぐ。バスの中はやや疲れて のこと。海水でイモを洗って食 うと思っていたが残念である。 と幸島のサルの比較を観察しよ 船も引き上げたとの説明で幸島 支部長のあいさつののち、全員 水旅館」前へ到着。全員旅館の べる姿が観察できたのだが…。 くの野生ザルが棲息していると に渡ることを残念する。高崎山 国の海は荒れていた。島に渡る 大広間に集合。昼食の前に大谷 さて、 さて、幸島に到着、 ガイドの説明だと現在百匹近 最後の目的地都井岬へ しかし南

をうける。 阜からの高橋さんも紹介される。 部員二十五名も揃って会場も大 で自己紹介の場となる。宮崎支 ここで、都井岬 より清水旅館に到着していた岐 にぎわいとなる。間違って前日 旅館の心づくしのサー いる地元の の野生馬を観察 ピスで

今西錦司先生の偉大さにふ

視界が良ければと思いつつ、例点であるかの論議はこれで決着。 にて下山。途中:猪;が出たと 万歳)。そして全員で記念撮影 によってのセレモニー(今西流 されており、事前の何等の三角 五ぱ)に到着。三等三角点と識 やや強い小雨混じりの風を受け すぐに野生馬の出迎えとなる。 柵を乗り越え、ての登りとなる 旅館のすぐ前より、 も小降りとなったの せる。食事の 先生に対する気くば のおかみ、清水法子さんの今 たてのとび魚が出る。 いう一幕もあり。 ながら約二五分で三角点(二九 動である扇山への 地名産 終わる頃、やや雨 C. 馬のための 登山となる りを感じさ 最後 0 2

ののち、宮崎駅に到着。(四時 治夫妻との別れ。全員で見送り 到 園にて小休止の後、宮崎空港へ あげくの果ては歌集にない歌ま 駅到着二一時四〇分。無事二日 の「にちりん二六号」にて大分 つの後、大分組は六時二七分発 散。駅にて最後の別れのあいさ 五〇分)宮崎支部ともここで解 スの旅を続け、サボテンハーブ で飛び出したが愉快に楽しくバ れた歌集の中にある歌の披露 やマイクを増やして車内で配ら 二時にバスにて清水旅館を出 着。飛行機にて大阪へ帰る宇 帰りの車内ではガイドの歌

でした。 九州学問の旅でした。 楽しくもあった二日間 疲れもあ お疲れ

熊本支部 福岡支部 お客様 宮崎支部 東九州支部 六名 二名 二六名 二七名 三二名

支部四〇 業などを決定 周年事

田 之 定例総会開催報告

名(うち会友一五名)(別に委 六時から大分市の「コンパルホ 任状六八名) が出席して開催さ が、去る四月十七日(土)午後 れました。総会では梅木支部長 ル」の視聴覚室に出席者四八 九九年度の支部定例総会

> 年四回程度の発行を目途としたテーマとした年間月例山行計画 が選出され、一九九八年度の事の挨拶の後、議長に首藤宏史氏 ました。 支部会報の発行などが決定され どの本部の年間計画、別府湾リ 懇談会、一二月の年次晩餐会な 月に岐阜で予定される全国支部 決定されました。事業計画では 予算案が提案され、提案通りに 後、一九九九年度の事業計画、 なされ、 レー登山コースの充実をメイン 業報告、決算報告、監査報告が 新日本山岳誌」の編纂や一〇 報告通りに承認された 議長に首藤宏史氏

画が決められました。 みについて提案され、六月一二 州四支部行事・今西祭の 員に呼びかけて実施する実行計 全国の今西氏にゆかりのある会 崎山、幸島、都井岬という今西 日、一三日の二日間にわたり高 元会長のゆかりの地を結んで、 そのあと特別議題として、 取り組

懇談会の開催等記念事業につい 山」の改訂版の発行、全国支部 て今後役員会で具体化していく して記念誌の発行や「大分百 〇〇〇年の支部四〇周年事業と ことになりました。 また、その他の議題として一

干名となっており、 在は一名であるが、規約上は若 こう二年間の任期で改選されま 全員留任ということになり、向 したが、副支部長については現 次の役員改選では、現役員が 会の運営上

上高地からは白樺の新芽とニ

れました。 いということになり、その一名 もう一名いたほうが機能しやす 選出方法等は役員会に一任さ

って散会しました。 頂記録のビデオ映画の鑑賞を行 て「白き氷河の果てに」 K2登 閉会後はアトラクションとし

副支部長 佐藤浩幸氏を選出 に

開かれたもので、その結果、佐長の選出について協議するたに ととなりました。 藤浩幸氏(日田)を選出するこ 託されていた、追加する副支部 めと、併せて総会で役員会に付 体的実施計画などを協議するた た九州四支部行事・今西祭の具 時よりコンパルホールで今年度 た。この役員会は総会で決まっ 去る四月二七日(火)午後 目の役員会が開かれまし

支部長 事務局長 副支部長 委員高登研 委員自然保護 委員山行 委員会計 佐藤正八 加藤英彦 甲斐良二 佐藤浩幸 野村芳雄 宇津宮隆史 西 孝子 木秀徳

Ti

す

と登山者のウェアーが雪の白を 来である。ゴールデンウィーク 思議な魅力を持っている。 薄れ、雪にいだかれ、雪と戯れ ともなると色とりどりのテント 明るい。四月中旬の小屋明けか ードをあげようとする足を阻む の登りに九〇以のザックがスピ 返し。見上げる丘が涸沢。最後 で刺さってくるような雪の照り る華やかな季節。春の涸沢は不 天候も安定し、冬山の厳しさは 背景に美しく、気温も和らぎ、 並び始める。春山シーズンの到 ら涸沢に一つ、二つとテントが め入る人はいない。春の涸沢は 足元からはサングラスの奥にま 冬、涸沢は雪崩の巣と化すた ギラギラと照りつける太陽

役員は次の通り

監查 同 委員 松尾 飯田 勝之 健

まだ橋はかかっていない。雪の 注意が必要となる。 解け具合でルートが変わるので らは雪の上となる。この季節 だった。横尾を過ぎ、本谷橋か 芽も見当たらない土ばかりの道 たが少し早十ぎたようで、草 道・・・のはずだ

た。 にはありんこの行列ができてい きのいいこと・・・奥穂や北穂 は大賑わいで、ビールの売れ行 に飛び込んでくる。快晴の涸沢 々と空の色しかなかったモノト 着いてみると、それまで雪と木 ーンの景色に、鮮やかな色が目 涸沢への最後の登りをあえぎ

る。固い雪にアイゼンがよく利 小豆沢に入ると雪崩の餌食とな のコルめがけて直登する。左の ドを目印に右に見ながら白出し 時出発。夏道のザイテングラー 五月三日、曇り、二時 起床四 3

を撮り、五月五日に奥穂南稜で 天候で周りは何も見えず、 の奥穂高岳山頂はいまだに凍て 者にも緊張が走る。氷点下七度 落事故が起こり、連日のヘリコ 稜になる。そこで二日続けて転 同じ。梯子を二つ登ると急な雪 まですっぽり雪に覆われ、入り 逝った先輩にお花を供えて下っ ついた世界だった。あいにくの プターによる救助で、他の登山 ピークへのルートは夏道とほぼ 口だけ雪が掘り下げられている。 二階建ての穂高岳山荘は屋 根

るのに驚く。 春山は雪崩の危険 を避けるため、雪の緩まないう めたが、まだ登ってくる人がい するのが常識なの を始

何度も雪崩の音がする。無気味 缶¥500、ロング缶¥700、ジョ 参考のために・・・レギュラー テでおでんとビール三昧の一日。 ら雪を払い落とす。涸沢ヒュッ 心配をしながら、テントの中か な音に眠れぬ夜となる。 ¥100です!!。深夜、ドーンと ッキ生ピール¥800、おでん一本 オーバーだが風雪のため停滞。 一晩中降り続く雪に、雪掻きの 吹雪・・・と書くには

こすこととなる。晴沈もまた愉 まみに、最高に贅沢な1日を過 香りは格別で、穂高の眺めをつ が、下界の煩わしさから開放さ 空が広がり停滞するには惜し う一日停滞することにする。青 雪崩の危険のため行動をひかえ 野県警がテントを一つずつ回り、 てほしいと言われ、仕方なくも かりで、 五日、どこを見ても雪崩の後 新雪で割ったブランデーの 涸沢に入っている長 いったところだろう

寄りを松濤岩向けて直登する。 色に染めていく。北穂沢の南 ヘッドランプの明かりを頼りに 刻々と色を変え、山肌をパラ めると、モルゲンロート まずまずの 天候の 中

> 高岳山 かに南 にキレット側に少し下った北穂 登っていくと松濤岩に出る。ビ 南稜に近づきすぎると傾斜が急 天候がいいとルートファインデ 真の白な世界で、写真も撮らず ークまで五分とかからず到着。 インディングしながら急勾配を になるので、慎重にルートファ イングも楽だが、モルゲンロー ・も束の間、ガスってしまい微 荘のコーヒーでほっと一 稜が見える程度となる。

なる 五月の る下山したこともあった。慎重 え始め、太陽が顔をのぞかせ、 たときは、谷を背にして恐る恐 その昔、初めてアイゼンを履い 輩にお花を供えて下山を始める に下山していると、北尾根が見 頂上直下に、北穂沢で逝った後 穂高にお似合いの青空と

せせらぎが耳に届くと横尾は近れ。雪の道が土に変わり梓川の 涸沢ともこれでしばしの お

くなってくると上高地。ここは かれながら、上高地へと急ぐ。 の短い環境下で花をつける高山 をつけていた。一週間で芽を出 すでに「下界」の様相を呈し し葉を広げ花をつけて・・・夏 ていた道端に、 一の終わりを告げる。無事 してほっとしたような、 者より観光客のほうが多 清楚なたたずまいに心引 の時には土ばかりが見え ニリンソウが花

は走る。 みながら、リンゴ畑の中を列 いたかった。そんな余韻を楽し まだまだ涸沢の雪にいだかれて 水

ご一緒しませんか! で行こうと思います。どなたか れば槍まで、根性があれば笠ま の木まで縦走します。元気があ さて、夏は・・・白馬から針



一九九八 ラン t

国境近くで横断する。すでに高 ユングフラウ三山など特徴のあ ブラン山 度も下がり、眼下にアルプスの アルプス山脈をオーストリアの のほご中央を横断して、さらに ッヒに着く航路はイタリヤ半島 ラン山群、マッターホルン、「々が白く輝いて見える。モン シンガポール航空が チューリ

祈る。

天を神に感謝し、

友人の成

功を

つない晴天である。 午前六時、アルプスの空は雲 まるドラマに身震いを感じる

中断続的に続き、 雷を伴った豪雨である。雨は夜 が終わった途端に雨が降りだす ヤンブ場に着き、テントの設営 てきた。 シャモニーのロジェール・キ 明け方は晴れ

ドジョラスと対峙する位置にあ メールドグラスを遡り、グラン メールドグラスの左岸に下りて 小屋はモンタンペールから一度 き、一泊する。クーベルクルの ビューポイントである。 り、モンブラン山群中で最高の しに、クーベルクルの小屋に行 N氏と三人の山旅である。 モンブランに登る前の足なら 今回はアルプス初体

アタックする日である。この好今日は甲斐氏がモンブランに ドグラスから沸き上がる霧が次 雪を染めて輝き始める。メール 告げる前に、寒さをこらえて外 も透き通った青一色になる。 々と消えていき、空がどこまで まりを告げる最初の燭光が白い に出る。山々の稜線に一日の始 朝まだ太陽が一日の始まりを

貞

夫

強風のため運転休止になり、昼翌日ミディのロープウエーが 間からシャモニーの街を散策す 二時間ほどで熱が下がる。 る。タ方N氏が風で熱を出した 生姜を煎じて飲んだら、

押し付けようと途切れなく吹き

シャモニー側から、

体を雪面

ル・モディはすごい風である

その美しさに驚き、これから始る山々が窓いっぱいに広がり、

ようなの このところ山は毎日 早めにケーブルに 風が

前に新築され、モンブラン縦走 重になるところだ。 下る雪稜は、初体験者は ミディからバレブランシュに コスミック小屋は 被災後 一寸慎

る。夕方ころは一〇〇人を越す

には抜群のトレールヘッドであ

て、蛍火のように揺れながら続 た人々がタキュル雪稜に向かっ 暗い雪の斜面をアンザイレンし ライトの下でアイゼンをつける 寒い屋外に出る。小屋のサーチ いている。 人々で満員となる。 午前二時、朝食を済まして肌

で二回目である。 ディ、モンブランの ミディからタキュ 縦走は今回 ル、モンモ

くと、風が強くて残念下という。 ぐらいの棚をタラバースする。 けてクレバスの上の縁の足の幅 多い時はニメートルぐらいのク 常に痩せている。そのため雪の まえて、もう登頂したのかと聞 てくる人々がいる。一人をつか けきっていないのに、もう下り から風がでてくる。まだ夜も明 いる。セラックの中をくぐりぬ レバスが一五メートルも落ちて 夏が早いと言うのか、氷河 タキュルの稜線を越えるころ 今年は雪が少ないと言うの が非

強くない ように突風が吹けば 風になった反 がます れるが安心である。 風に切 が、人とすれちがうと、 体が飛ばされるほど 動でふらふらと n B かえって危 から 富士山ので、 かな

時であ チニ〇メートル登ってセルフビ 登チョウであったが、緊張の一 イックスローブに助けられての の平らな所に腰を下ろす。 イしてN氏の登チョウを確保 直の壁となっている。一ピッ る。さらに二〇メードルで稜 モンモディ U 稜線の 乗 水越しは 7

えているが強風に押され 前方にモンブランの 頂 れて進ま

性がある。雪のを 塔がある。雪のを 袋に流し込む。水も凍ってシャしている。こkでパンを水で胃 年は風よけになるくらいに露出に岩頭が見えるだけなのに、今塔がある。雪の多いときは僅か塔がある。 ベットである。

ヘリコプターが山頂にやってき立っている。人は誰もいない。 く。フランス山岳会の旗が一本 Wストックで体を風上に傾け 旋回し 風に逆らいながら、一歩一 っていく。やがて頂上に着 確認すると飛び去

かかる。ノーマルルートの下 写真を一枚写してすぐに下り 小屋まで一気に下る。 全く風がない。バ

> ルートを登ってくならない。この時は、もうひとかみ レリ ここでゆっくり - トを登ってくる二人がいる。 らない。この時刻にノーマルは、もうひとかせぎしなければ アイゼンをはづし、所々でシ ゼードしながらグランミュー (T) グレンミューレの 1/5 腹ごしらえを 小屋まで

終える。 ムビッシュホルンに登り、 を レン、 移し、、 二月 後ツェル ユングフラウョッホに ユホルンに登り、ミュマッターホルンやリ マットにテント 行を

であ め、二人以上でアンザイレンを河のクレバスの危険を避けるた て感謝している。アルプスの氷 もあったが、よく頑張ってくれ っては少し欲張り過ぎたようで して登らなければならないから ルプス 初見参 0 S N H 112

初

石川、 木浦公民館に宿を決め、 エノハを釣ろうと一日 三月二十七日(土)、 佐藤、児玉氏らと共に、 児玉三先生は川に 早く出 安部 早々に

> り昔の ラフに潜り込む。 の時間を気にしつつ 道 せる。その後皆で「梅路」に寄 咲きほこり、春の訪れ 12 (3) 釣ってきたヤマメ、ハエ、菜 中の 大分より一 などを求めてあたりを探索。 花、ノビルを肴に夕食。明日 人にお聞きした。)、 花の名前は後で梅路の御 写真など見せて 山ノコ、農機具おいこん 川さんと私は今夜 かりに菜の花、ノビ 足 早く彼岸つつじ 早々にシュ を感じさ いただく。 桜など 0

分末浦公民館にて、私たち前泊三月二八日(日)午前六時三○ 山登山口に到着。 〇分林道 (千軒平林道) の 一三名、車 組と早朝出発組とが合流。総勢 四台で出発。 釣鐘 時

〇〇分、 と稜線が見え始め、 ザグ道を四〇分ほど登っていく となり、 スギ林の中のゆるやかなジグ スズ竹と変わる。八時 稜線に到着 樹木も雑木

る事に 私は、 〇峰」を見せてもらうが、 鐘山を私は知らず、 浦で「マイカーで行く九州一〇 に着いていたのだ。)(実は釣 方でルートを見失い、 不足をつくづく思い知らされた。 (帰りに判明したが、稜線の下 は、山頂まで感ちがいしてい稜線を鹿川峠と感ちがいした 峠より百けほど東の稜線 後で気付き、事前の勉強 実感とは違うピークを 載っていなくて、 持っている 直登した 100 木

> らされる。 地図を読む事の大切さを思い知れを鵜呑みにしていたうかつさ コースタイムもでたらめで、こ 山だと印してお 1) よって

> > 流万歳?)をすませ、

順で

0

to

の行

#

一分

14 ありけつこう楽しめる。ガレ場 業道に踏み込んだため)、おま あたる所まで行くが、道が消え の土の下にはまだ霜柱が見られ バースして行くが、岩場なども けにスズ竹が視界をふさぎお て無くなり(山仕事のための作 八時五〇分、山頂がすぐ上に 本物の鹿 の上と下の温度差を感じる。 頂の一つ手前のピークをトラ 川峠に八時一五

御

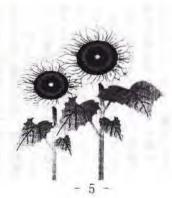
峠

から

頂に着く。 ヤブこぎで、 飯 田さんを先頭に、 (釣鐘山山頂にて) (山頂着十時二十 やっとの思いで山 スズ竹の

分着 分下 らなくて正解であったなどと、道も急で、登る時にこの道を通 到着十一 化しながら下る。 スズ竹のヤブこぎに悩まされる 登り道をまちがえたことを正当 を下っているにもかかわらず、下山にかかるが、正規のルー 司 行者: 飯 田 一時十分。 石 麻 μĺ 生 登山口の林道

佐 藤 西、 木本、 安部、 牧野 児玉、 安部…



部 昭

四月月例山

報告

山から御所峠間の登山道のない口のロングコースで前回の樅木峠から九六位山までの約一○キ山ルート踏破の第二回目、御所山ルート踏破の第二回目、御所 今 回の山 行は別府 湾リレー 登

尾根歩きルートと異なり、 って舗装され 林道と尾根を歩くハイ た林道が走っ

名簿に全員記帳し、各々願いをが白山神社。備え付けの参拝者蔵さんの入った祠があり、これ な岩に 高い岩場で眼下に坂ノ市市街地、込めて参拝する。神社の上は小 がある。少し先に「白山神社入そこには舗装された広い駐車場 の岩の間をくぐり抜けると大き 六○段ほど登る。可愛いしめ縄 歩きからスタートする。 NTT 石油備蓄の白いタンク群、遠く た道を少し下り、 り口」の看板があり、舗装され に登っていくとまた林道に出る。 ノキとスギの林の中をゆるやか の鉄塔より左の尾根に入る。ヒ 七時四〇分、林道白山若山線 台置いて本日の出 (通称グリーンロード) の林道 囲まれた空き地に石の地 車に分乗し九六位峠に三 左側の階段を 発点御所峠へ。

> はのことか。 る、これも車の入る里山ならで った。全員イヤーな気持ちにな んですか」と言うと黙ってしま 議。一こんな事は違法ではな るんですか」と血相を変えて抗 隠れていた若者が「何をす

よく食べたのが思い出されて懐が多い。子供のころ学校帰りにの道端にはギシギシやイタドリ みる。「酸っぱい青春の味」がかしい。イタドリを少し食べて 点の三叉路で小休止する。林道 白山若山線と再進線との合流

い山男(女)たちは肉や水のおお供にちょっと毛並みのよい野お供にちょっと毛並みのよい野 おり、 傷にに浸る。 この犬の先行きを思いしばし感 に困って山に放したものだろう。 躾けられており、転勤者が始末 すそ分けをする。この犬はよく 斜 に登ると高圧線の鉄塔が立って 面で、 海崎線四〇号」の標識より右 再 進線の 草を刈り込んだ緩やかな ちょっと早めの昼食に 林道をしばらく歩き

る進 の前 峠(別名広内峠)だ九六位峠か ら林道を一 mほど歩くと古刹 かに下っていくとそこはれ六位 林道から雑木林に入りなだら (駐車場) に着く。円通寺山門一九六位山円通寺」の下の広場 。左手の小山を「鐘楼山」とむと九六位山キャンプ場に出 の大イチョウを横目に左に仕事場)に着く。円通寺山門

リモチをつけてメジロを囮に罠

山道を少し入った所でト

けているのに出会う。メ

山山頂到着。(八時三五分)東に登っていくと三等三角点の白

カシなどの照葉樹林をゆるやか

林道から尾根に入り、シイや

には国東半島が一望される。

撮影をする。小休止後尾根伝 九州支部恒例の万歳のあと写真

に下るとまた林道に出る。

会する。 かった。展望台で昼食をとり、取ってしまったのかほとんど無 ビが多いと聞いていたが先客が 島が望まれる。九六位山はワラ 別府湾、高崎山、遠くに国東半 台からは眼下に臨海工業地帯、 望台の立つ九六位山頂だ。展望 ある。小高い丘陵を越えると展 駐車場に戻り一三時五〇分に散 経筒が出土している経塚遺跡で 倉時代の銅製と陶製と

《豆知識

受け、 えた。 で、江戸時代臼杵藩の保護を 九六位山円通寺について 古くは『九鹿猪山』と号し 修験道の霊場として栄 四〇〇年前の創 建

じて飲めば母乳が良く出るとた、山門のイチョウの皮を煎 雨乞い祈 授乳祈願で霊 祷で霊験あり、 験あり。 ŧ

五五 点ピークーー:三五 九六位 同発一○:一五 高圧線の下:三五 林道三叉路一○:○五 :○○ 四等三角点のピーク九三五 同発八:五○ 再進峠九 入口八:一〇 白山頂上着八: 七:五〇 同発八:〇〇 白 御所峠発七:二〇 五 高圧線鉄塔着一〇:五〇 (T (昼食) 同発一一:二〇 三角 (海崎線四〇号鉄塔) 一〇:四 1 スタイム》 同発一二:00 白山神社

> よりつ 道一三:三五 九六位山駐車場 九六位山 一三:五○ 散会(木本氏メモ 食)九六位山発一三:二〇 六位山頂上着一二:四五 (軽 駐車場一二:二〇 林 九

《追 記

り、林道の方向を確認しておけた。林道が尾根伝いに付いておけられており、分かりやすかっこのコースは良くテープが付 ため、 と良い。急に指名されて書いた 尾根を歩くように心がけて進むば迷うことはない。できるだけ 赦願います。 ースの説明が不十分な点は御容 記憶がはっきりせず、コ

礼、 石川、木本(淳)、 安藤(幹)、安藤(セツ) 同行者 渡部 佐藤 (正) 土居、西 麻生、 阿部 (和)、 木本



マで藪を切りながら進み、

も、変なところに出

あり、チョットどちらにと迷

夜 明

月月例山行報告

ħ.

から

上にと向かっていけば良いのだこれより下り。登りの時は上に が下りの時はそうはいかない。 ら進む。割と早く夜明城に着く。 てくれた赤い目印を見つけなが らしき道は無くなり、藪の中を の道があるのだが、だんだん道 山道に入って行く。最初は正規 継所が有る所の車道から離れて 六位山が見えて、近くに無線中 してから登山開始になってしま になるので要所要所に車を配置 しても一部車道に出て歩くよう 根には車道が通っていて、どう 城から登り始める。縦走する尾 当日は九名で九六位山横の夜明 歩きで、五月三〇日実行された。 一部谷に出たり、急な下りの所 ルートを探しながら、以前付け に下山出来たので有り難かった。6 た。でもその方が後にスムーズ 始めるのに時間をとってしまっ い、出発時間の早い割には登り 最初の夜明城はすぐ前方に九 った別府 £ 湾リレー登

ほど歩き、車道から左手の尾根 も良く中食を取る。 ころに出る。開けた場所で展望 ていた。すぐ尾根に出て尾根伝 だ。そこはチョット急登になっ に入って行く。今度は竹林の中 ている。あちこちに竹の子が出 いに登っていくと鉄塔があると ット注意が必要であ 道に出て約五〇〇メートル

3 確認しながら前進して車道に出 印も見つからない。コンバスで 行けばと迷う時もあり、赤い目 開きながら進む。一部どちらに これよりまた、藪の中を切り

すことが出来た。下山後の感想

今日の全コースを無事歩き通

場がある。 るところに鉄塔が立っていて広 がら登っていった。ピークに出 尾根道を赤い目印を見つけてな に出て直ぐに山道に入って行く。 ずに下る。そしてまた一度車道 出来るだけ登ってきた道を通ら る。登ってきた道を少しもどり、 で、そのうちの一番高い峰に登 のカラス山は峰が三つ有るそう があり、すぐに山頂に着く。こ カラス山にははっきりした道

に鶴ガ城が見えてきたら道も良 人が通るのがやっと。 は車も通れたのかな。 橋を過ぎると道幅は広い。以前 行き橋を渡る。橋の下は車道、 ネルの上部を通り、 丘に出た。これより複峠のトン ケを登り、 って行くと大きな養鶏場のある 鉄塔の横のコンクリートのガ 直ぐ下りの尾根を伝 右の方向に 右手前方 でも今は

> と書かれた標識が立っている。まもなく鶴ガ城山頂だ。利光山 くなり、 少しずつ登って行くと

ころにお寺があった。 というのかな? から下山開始。 最初は小さな道 なり、下の部落に出た。 だったが、だんだんと道も良く 身体を休めて、 (成大寺 出たと

心苦し 等を一つも書くことが出来ず、 いなかった。だから時間のこと 当日の登山記録を一つもとって と言われて慌てた、というのも たので、山行報告を書くように とのみを一番の楽しみとしてい 立っていれば良いと感じた。 山道から車道に出る所に標識が として、車道から山道に、また 今までは皆様について登るこ い次第。その点お詫びし

同行者 (セツ)、石川、木本(淳) 土居、西、 安藤(幹)、 姫野、 安藤 牧野

見え、ニュータウンのセルター

左下に四方津の駅がちらりと



年 次 会 病

平

西

まで四〇分乗り、中央線に奉仕 間の特急で、普通で六番目の駅 八王子で」という答え。三〇分 り換えですか」と聴くと「次の がら車掌に「四方津はどこで乗 した愚か者である。 さ一号」に乗り、朝食を食べな 二月六日、 宿より「あず

中で、落ち葉の中を歩く。 小道に入ると急に山らしい林の では広い舗装の道を三〇分登り、 がら行く。桂川を渡り、川合ま 六人の人たちとおしゃべりしな が何人かいて、方向が同じで、 四方津では山登りのグループ

山が見える。二、三日前に降っ時々木の間より南アルプスの雪 どになり、やがて矢平山八六〇 いた旧大地峠より会員も十人ほ た雪が残っていて風は冷たい。 ながら、大分の道と変わらず、 りの少ない道は山梨県だよ思い ベーター)が見える。細く人通 かと思うようなブリッジ(エレ 倒木をいくつも越えて登りつ

> モニーを待つ。 広い山頂で行われるセレ

る。歌い、踊り、酒と、そして も面白く、笑いと会話の渦であ 持ってくる。支部員の自己紹介 青森はリンゴをいつもたくさん り、支部特産の品を皆に配る、 毎年北海道からは平野

れの声。 ここで解散である。「来年まで で登りが長く、舗装にうんざり はじめ、塩瀬集落より梁川駅ま 二〇分も歩くとひざが笑う。丸 元気でね。 一二〇人は登っていたと思うが しながらようやく梁川駅に着く いわれ短い方へ。水道管が見え 川集会委員より時間がかかると 峠で倉岳山に行きかけたが、中 ツヅク山七八三日を過ぎ、寺下 りもストックに身体をあずけ、 下山。山頂より岩と石の急な下 」「またね。」と別

山行の手伝いをしていた。 すと精算払いである。 新宿駅に着いてその番号札を出 い。これが乗車券である。 の札があり、一枚づつしか出な 記念山行に参加してみませ 東九州支部より木本義雄氏 無人駅で、 筆には現せない空気を吸っ 箱の中に番号付き から

二メートルに着く。一二時集合

防寒用のフリースを

時 附記

わい、誰の顔も輝いている。 人との触れあいに一時の幸を味 集合写真を撮り、一時より下 親山行の常連が地方より集ま 開始。元副会長松田雄一氏と 涼子、関西からは中谷絹子と

東九州支部 四 0

りお知らせ。 四〇年記念誌』編集委員よ 日本山岳会東九州支部

業の一環として記念誌の発 年に当たりますが、記念事 来年は東九州支部四〇周 りますよ。 てみませんか。 年行きたくな

ースタイム往復六時間。 間半 参加 費五〇〇円(写真代)コ 昼食

イロヤマ 四方津= (ヤダイラヤマとも シオツ、 矢平山=ヤテ

編集計

支部長挨拶

アピ ·日本山岳会長 (または自然保 梅木東九州支部 憲章)

会員投稿(随想、詩、短 東九州支部一〇年の歩 飯田会員 梅木支部長

各会員 その他)

俳句、

写真、

研究

支部会員海外登山年表 物故者追悼 · 担当会員 仮題 野村会員 中高年と登 山

その他

的な投稿をお待ちしていま絵、その他)皆さんの積極 短歌、俳句、 写真、

間、 地域・国、目的の間に海外登山をなさった方 三〇日までとします。この 年表対象は一九九〇年七月 四日から二〇〇〇年三月 海外登山報告

安東会員

募集原稿

各会員の投稿 (随想

〇日 〇目的 八月月例山行につい 地 谷峠 八月二八日 £ 午

後六時出

発

(サニー

その他

(K · I)

五四

記念山行計画

全国支部懇談会の実施計

画

山の選定)

新日本山岳志の編集 四〇周年記念誌発行 大分百山改訂版発行

(まず

せ下さい。 况、参加者 ・ピーク、 名等)をお知 Ė な活動

三・締め切り

いますが出来るだけ にお願います。 〇〇〇年五月末となって お早め

まで。 事務局(サニー 提出先 スポ 1ツ)

担当 1057) 安東桂三 097-568

国

四



〇月八日

(金)

三〇八号室

月九

日

(火)

三一〇号室

九時上り

月八日

水

三一一号室

時より

時より

九月八日

(水)

三一一号室 九時より

九時より

今後の日程は次の通り。 八月一〇日 (火) 三一一号室

知 5 せ

なるべくご参加お願いします。

いします。

主な準備業務

役員の方以外で出席できる方は

不動岩~千灯岳~水 T

> 〇行 〇周年記念事 を持参するとよい) 用シュラフ、

動 不 のこと。(虫よけ薬 水は二リットル用意 寸。食事三食分、夏 動小屋で一 おやつ、 泊 しま

拾得物のお知らせ

で拾得しています。心当たりの 方は飯田 (0977-21-3437) まで。 バッジがついている。)縦走路 に由布岳山開き、燕岳、剣岳の せんか。(黒いベレー風の帽子 たか帽子を落とされた方はいま 所峠へ)にご参加の方で、 二月の月例山行(樅木山から とな

おいて準備会を開いています。毎月一回、コンパルホールに 備会について |月一回、コンパルホールに||支部懇談会の準備のため、||〇周年記念の各種事業と全

○ 今年度は定期総会で決まっ 0 引き続き皆さんの投稿をお願 を心がけたいと考えています。 たとおり、会報年四回の発行 の皆さんご苦労様でした。 カーで送迎して下さった会員 きり楽しい交流の一時でした。 バスの中や清水旅館で思いっ の天気でしたが、夜行列車や 豊の国健康ランドの間をマイ 大分駅から高崎山、そして 今西祭 は二日目 があいにく

○ 会員の皆様方の思い思い ○ カラ梅雨ぎみで始まった今 てきました。 りをお待ちしています。 夏山の計画。そんな山のたよ ようやく夏山シーズンがやっ 結果的に長かった梅雨もあけ 年の梅雨は後半に長雨となり 0

日本山岳会東九州支部報 第6号

1999年 (平成11年) 7月31日 発行者 編集者 木田 秀勝 徳之 梅 飯 田 勝 〒870-0021 発行所

大分市府内町1-3-16 サニースポーツ内 西 孝子 TEL·FAX 097-532-0926 孝子方 TEL · FAX

佐藤正 題字